

授業科目	情報処理演習			授業形態	演習	単位数	2 単位
担当者	城山萌々 小田幹雄						
ナンバリング	ESU2B41	開講時期	2 年次後期	授業時間数	15 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼児:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						○
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	・1人1台のパソコンを使い、文書（Word）、表計算（Excel）の技能を学ぶ ・プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いた資料の作成を学ぶ ・プレゼンテーション発表については Google フォーム等を活用して相互評価を行い、フィードバックした結果をもとに振り返りを行う ・情報通信技術について知り、幼児教育者として様々な場面で対応と活用のできる能力を身につける ・課題提出はクラウドサービスを利用して行う						
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施		○	
到達目標	・情報化社会の仕組みの理解と倫理を理解し、説明できる ・基本的なパソコンの操作とアプリケーションソフトの操作ができる ・情報通信技術を使用した情報共有やデータの授受ができる ・「自分で考え、実践できる能力」(3)「学際的な視点で考えることができる」を身に付ける。						
授業計画	第1回	テーマ	オリエンテーション				
		内 容	幼児教育・保育と ICT（情報通信技術）について				
		授業時間外学修	予習：シラバスを読む 復習：幼児教育・保育と ICT（情報通信技術）について整理する				
	第2回	テーマ	コンピュータの基本操作				
		内 容	パソコンの基本操作を確認しながら、パソコンの仕組みを学ぶ				
		授業時間外学修	予習：スマートフォン・タブレットとパソコンの違いを調べる 復習：パソコンの基本操作と仕組みについて整理し、まとめる				
	第3回	テーマ	文章の入力操作				
		内 容	文章の入力方法と基本操作、編集方法を学ぶ				
		授業時間外学修	予習：キーボードの操作を確認する 復習：文章の入力と編集方法を確認する				
	第4回	テーマ	ビジネス文書の作成				
		内 容	様々な形式のビジネス文書を知り、作成方法を学ぶ				
		授業時間外学修	予習：これまでの学習を整理し、確認する 復習：ビジネス文書の形式と作成方法について確認する				

	第5回	テーマ	公文書の作成
		内 容	公文書の書式を理解し、作成方法を学ぶ
		授業時間外学修	予習：公文書とは何かを調べて確認する 復習：公文書の書式と作成方法について確認する
	第6回	テーマ	画像や図形を用いた文書の作成
		内 容	画像や図形の挿入方法を知る。画像と文字が配置された文書を作成する
		授業時間外学修	予習：おたよりなど画像と文字を用いた文書を確認する 復習：画像と文字が配置された文書の作成方法をまとめ、整理する
	第7回	テーマ	表計算の基本と操作
		内 容	表計算ソフトウェアについて学ぶ。基本的な表の作成と計算式の入力方法を知る。
		授業時間外学修	予習：表計算ソフトとは何かを調べる 復習：文書作成ソフトウェアと表計算ソフトウェアの違いを整理する
	第8回	テーマ	グラフの作成と基本操作
		内 容	グラフの作成と種類、基本操作について学ぶ
		授業時間外学修	予習：グラフの種類と特徴について調べて確認する 復習：グラフの作成と編集についてまとめ、整理する
	第9回	テーマ	表やグラフを用いた文書の作成
		内 容	文書に表やグラフを挿入する操作を学ぶ。数値や表の編集方法を知る。
		授業時間外学修	予習：グラフを用いた文書について調べる 復習：表やグラフの挿入や操作、編集の方法についてまとめる。
	第10回	テーマ	表計算ソフトウェアを用いた様々な形式の表の作成
		内 容	ビジネスで使用される様々な表の書式を知り、入力や作成の方法を知る。
		授業時間外学修	予習：これまでの学習内容を整理し、まとめる 復習：様々な表の書式を整理し、入力や作成方法をまとめる
	第11回	テーマ	プレゼンテーションソフトの基本操作
		内 容	プレゼンテーションソフトの基本操作を知り、資料を作成する
		授業時間外学修	予習：プレゼンテーションにはどんな方法があるか調べて確認する 復習：PowerPoint の基本操作について確認する
	第12回	テーマ	プレゼンテーションの実践①
		内 容	プレゼンテーション資料を作成し、発表する
		授業時間外学修	予習：プレゼンテーションの構成を考える 復習：互いの発表内容について整理し、まとめる
	第13回	テーマ	プレゼンテーションの実践②
		内 容	子どもの活動の中でのプレゼンテーションソフトの活用について考え、子どもに向けた資料を作成する
		授業時間外学修	予習：プレゼンテーションの構成を考える 復習：子どもに向けたプレゼンテーションについて整理する
	第14回	テーマ	プレゼンテーションの実践③
		内 容	子どもに向けたプレゼンテーション方法を考え、発表する

	回	授業時間外 学修	予習：プレゼンテーションの練習をする 復習：互いの発表内容について整理し、まとめる
	第 15 回	テーマ	インターネットのセキュリティと情報リテラシー
		内 容	セキュリティ対策や著作権保護について事例から学ぶ
		授業時間外 学修	予習：これまでの自身のインターネット利用状況を振り返り、まとめる 復習：セキュリティ対策の方法や著作権保護のための法律について整理する
	第 16 回		筆記試験
教科書・テキスト	なし。		
参考書・参考資料等	Office 基礎と情報モラル（noa 出版）		
成績評価の 方法・基準	毎回提出された課題と試験により、情報についての知識の理解の程度（60%）、「自分で考え、実践できる能力」（3）の獲得の程度（25%）、授業参加度（15%）で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	課題は次回の講義で、筆記試験は試験後に、それぞれ講評と解説を行う。		
授業時間外学修	授業計画の予習（各回 1 時間程度）と復習（各回 1 時間程度）を行う。 学期末には、試験に向けて配布資料などを整理し、学習内容を確認する。（4 時間程度）		
備 考	－		
連絡先（質問等）	オフィスアワー 城山：水曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 ※E メール・テキストチャットによる質問受付：随時（担当教員の E メール・アドレスは授業初回に提示する） その他、授業前後に教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	保育原理			授業形態	講義	単位数	2	単位
担当者	木村重子							
ナンバリング	ESF1C42	開講時期	1 年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15	回
必修・選択	保育士:必修 主事任用:選択必修			実務経験のある教員による授業科目			該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。							○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。							
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。							○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。							
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。							
授業の概要・方法	・テキストや配付資料を用いて、保育の意義及び目的、保育に関する法令及び制度、保育所保育指針等における保育の基本、保育の思想と歴史的変遷、保育の現状と課題を学ぶ。また、映像視聴やグループディスカッション、プレゼンテーション等を通して、保育実践に関する基本的事項についての理解を深める。 ・課題遂行においては、手書きの他に、スマートフォン等から Google form への回答の記入を求める場合もある。なお、その場合は当該授業内でフィードバックする。 ・特定の自主学習課題においては、Eメールによる進捗状況の報告を求め、質問も受け付ける。メールアドレスやその方法については、授業内にて説明する。							
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施				
到達目標	・保育の意義及び目的、保育に関する法令及び制度、保育所保育指針等における保育の基本について理解し、説明ができる。 ・保育の思想と歴史的変遷、保育の現状と課題について理解し、説明ができる。 ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」を身につける。							
授業計画	第1回	テーマ	保育の意義及び目的					
		内 容	保育の理念と概念を学び、子どもの最善の利益を考慮する保育について考える。					
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
	第2回	テーマ	保育に関する法令					
		内 容	保育に関する諸法令を知り、保育所、幼稚園、認定こども園の法体系における位置付けを学ぶ。					
		授業時間外学修	予習： 保育所保育指針解説 P.2～9、幼稚園教育要領解説 P.2～9、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 P.2～8 を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
	第3回	テーマ	保育に関する制度					
		内 容	子ども・子育て支援新制度及び保育所、幼稚園、認定こども園における保育の実施体系について学ぶ。					
		授業時間外学修	予習： 幼少期に自分が通った保育施設を振り返り、事前課題（保育施設における					

		学修	1日の生活の流れ等を記載するワークシート)を完成させる。 復習: 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第4回	テーマ	保育における養護と教育
		内 容	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育の原理について学ぶとともに、保育における養護と教育の意味を学ぶ。
		授業時間外学修	予習: 保育所保育指針解説 P. 30～37、P. 60～83 を読む。 復習: 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第5回	テーマ	世界における保育の思想と歴史的変遷
		内 容	映像視聴等を通して諸外国の保育の歴史の概要を知り、諸外国の保育の思想を学ぶ。
		授業時間外学修	予習: 自分が好きだった保育者の姿とその理由をまとめる。 復習: 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第6回	テーマ	日本における保育の思想と歴史的変遷
		内 容	日本の保育に関する歴史を知り、現在の日本の保育思想や保育施設との関連を学ぶ。
		授業時間外学修	予習: 幼少期に自分が通った保育施設を振り返り、事前課題(保育施設における行事等を記載するワークシート)を完成させる。 復習: 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第7回	テーマ	保育の内容
		内 容	乳児保育、1歳以上3歳未満児の保育、3歳以上児の保育に関するねらい及び内容について学ぶとともに、領域の意味について考える。
		授業時間外学修	予習: 1歳以上3歳未満児の子どもの発達の特徴を調べてくる。 復習: 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第8回	テーマ	保育の環境・方法
		内 容	保育の環境及び子どもに応じた保育の方法や形態にはどのようなものがあるのかを学び、環境を通した保育の意義についてグループディスカッションを行う。
		授業時間外学修	予習: 幼稚園見学の体験を踏まえ、子どもが園庭や保育室で接するものにはどのようなものがあつたかをまとめる。 復習: 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第9回	テーマ	保育の計画
		内 容	子どもの理解に基づく保育の計画の必要性を踏まえ、保育の計画にはどのようなものがあるのかを学ぶ。
		授業時間外学修	予習: 保育所保育指針解説 P. 38～50、幼稚園教育要領解説 P. 96～104 を読む。幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 P. 87～94 を読む。 復習: 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第10回	テーマ	保育の計画と保育実践
		内 容	保育実践の映像視聴を踏まえ、保育の計画に基づく保育実践の重要性、保育実践における保育者の留意点についてグループディスカッションを行う。
		授業時間外学修	予習: 幼稚園見学の際に配付された日案を読むとともに園見学の際の保育活動を振り返り、保育の計画と保育実践の関係について整理しておく。 復習: グループディスカッションに関する意見、感想をまとめる。

	第 11 回	テーマ	保育実践における保育者の配慮
		内 容	前回のグループディスカッションを踏まえた各グループの考えについてのプレゼンテーションを行い、保育の計画に基づく保育実践の重要性、保育実践における保育者の留意点について考える。
		授業時間外 学修	予習： グループ毎のプレゼンテーションの準備を行う。 復習： グループディスカッション、プレゼンテーションについての感想をまとめる。
	第 12 回	テーマ	保育の記録・省察・評価・改善
		内 容	保育の記録のとり方、留意点について学び、記録を踏まえた省察・評価・改善の意義について考える。
		授業時間外 学修	予習： 保育所保育指針解説 P. 53～59、幼稚園教育要領解説 P. 105～123 を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 13 回	テーマ	保育における子育て支援
		内 容	子育て支援の必要性の背景を知り、グループ討議を通して保育現場における子育て支援における役割について考える。
		授業時間外 学修	予習： 保育所保育指針解説 P. 328～342、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 P. 348～371 を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 14 回	テーマ	保育の現状と課題
		内 容	保育の現状を踏まえ、今後の課題について考える。
		授業時間外 学修	予習： 新聞記事等を参考にして、保育に関する課題にはどのようなものがあるかを書き出す。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 15 回	テーマ	まとめ
		内 容	これまでの授業の振り返り、ワークシートを用いたまとめを行う。
		授業時間外 学修	予習： 既習内容を振り返り、疑問点、理解不足の点をまとめる。 復習： 疑問点、理解不足の点について既習内容を確認する。
教科書・テキスト	幼稚園教育要領解説（平成 30 年 3 月告示 文部科学省） 保育所保育指針解説（平成 30 年 3 月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成 30 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）		
参考書・参考資料等	授業中に適宜資料を配付する。		
成績評価の方法・基準	試験レポートと毎回の授業後に提出する小レポートにより、保育の意義及び目的、保育に関する法令及び制度、保育所保育指針等における保育の基本、保育の思想と歴史的変遷、保育の現状と課題に関する理解の程度（70%）、「コミュニケーション能力」（1）獲得の程度（20%）、授業参加度（10%）で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	授業後に提出された小レポートについては、次回の授業にて解説する。		
授業時間外学修	予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分）として、授業計画で示された内容を実施する。 定期試験に向けてテキストや資料を見直し、既習内容を確認する。（約 50 時間） 定期試験の結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。（約 3 時間）。		

備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は、幼稚園にて保育に従事した実務経験を持つ。幼稚園教諭としての実務経験をいかして、乳幼児の発達について保育現場での具体的な事例を挙げながら授業を行う。 必要に応じて、授業内容を変更する場合がある。
連絡先（質問等）	オフィスアワー 月曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 その他、授業前後に、教室にて質問を受け付ける。

授業科目	保育原理Ⅱ			授業形態	講義	単位数	2	単位
担当者	木村重子							
ナンバリング	ESF2E43	開講時期	2 年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15	回
必修・選択	保育士:選択必修			実務経験のある教員による授業科目			該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。							○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。							
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。							○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。							
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。							
授業の概要・方法	・レジュメや配布資料を用いて現場での実践を紹介しながら、乳幼児期の発達や生活、遊びについての理解を深める。 ・乳幼児期における生活や遊びを通して、総合的に保育することについて学ぶ。 ・保育実習の経験を生かし、保育現場の様子を映像や写真で見ながらグループディスカッション等を行い、理論と実践の整合性を学習する。 ・保育者の専門性や役割の重要性を学ぶとともに、これからの時代に求められる保育のあり方を考え理解を深める。							
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施				
到達目標	・保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育要領を十分に理解し説明できる。 ・保育現場で必要となる知識（乳幼児期の発達の理解、応答的なかわり、保育におけるP D C Aサイクル等）を理解し、実践に役立てることができる。 ・「自分で考え、実践できる能力」（1）「現状をしっかりとらえることができる」を身に付ける。							
授業計画	第1回	テーマ	オリエンテーション・保育の現状と方向性					
		内 容	・保育原理での学びを基に、保育原理Ⅱでの授業内容を確認する。 ・保育の意義及び目的を理解し、保育の現状とこれからの保育の方向性を考える。					
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読する。 復習：授業内容を振り返り、学んだことを整理する。					
	第2回	テーマ	保育に関する法令からみる保育原理 ～これからの保育で大切なこと～					
		内 容	保育に関する法令のポイントについて学ぶ。					
		授業時間外学修	予習：保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み、重要だと思うことを整理する。 復習：授業内容を振り返り、学んだことを整理する。					
	第3回	テーマ	自己肯定感を育む保育					
		内 容	保育現場での事例を実際に経験し、自己肯定感を育む保育について考える。					
		授業時間外学修	予習：実習日誌を見ながら、実習での保育を振り返る。 復習：授業内容を振り返り、保育の整合性を取る。					
	第	テーマ	保育における養護と教育の一体化とは					

	4 回	内 容	養護と教育の一体化した保育とはどのようなものか、保育実践の事例から学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：養護と教育の意味を確認しておく。 復習：授業内容を振り返り、保育への理解を深める。
	第 5 回	テーマ	子どもの理解
		内 容	子どもの存在について多様な面から理解する。
		授業時間外 学修	予習：子どもに対するイメージをまとめる。 復習：授業の内容を振り返り、子どもの理解を深める。
	第 6 回	テーマ	子ども主体の遊び・総合的な保育
		内 容	・非認知能力を培う保育や教育について、遊びを中心とした保育から考える。 ・子ども主体で夢中になれる遊びを、ワークショップ形式で考える。
		授業時間外 学修	予習：自分自身が子どもの頃、どのような遊びに夢中になっていたかまとめる。 復習：子どもの遊びにはどのような意味があるか振り返る。
	第 7 回	テーマ	子ども観・保育観①
		内 容	・保育実習で実践経験を通して、感じたことや課題をグループディスカッションを通して共有し、保育への理解を深める。
		授業時間外 学修	予習：保育実習中のメモや日誌等を通して、保育実習を振り返る。 復習：グループディスカッションで共有したことをまとめる。
	第 8 回	テーマ	子ども観・保育観②
		内 容	・前回のグループディスカッションを踏まえた各グループの意見や考えについてプレゼンテーションを行い、子ども観や保育観についてまとめる。
		授業時間外 学修	予習：各グループでのプレゼンテーションの準備を行う。 復習：グループディスカッション及びプレゼンテーションについての意見や感想をまとめる。
	第 9 回	テーマ	行事からみる子どもの生活と遊び①
		内 容	・行事を行うことの意味について知り考える。 ・グループでクリスマス会の計画を行う。
		授業時間外 学修	予習：日本の年間行事にはどのようなものがあるのか調べる。 復習：授業の内容振り返り、学んだことや計画したことを見直す。
	第 10 回	テーマ	行事からみる子どもの生活と遊び②
		内 容	・グループで計画に基づいたクリスマス会の準備を行う。
		授業時間外 学修	予習：行事のねらいや意味を理解し、クリスマス会を行えるよう準備する。 復習：グループの発表に向けて、役割分野や進め方などを確認する。
	第 11 回	テーマ	行事からみる子どもの生活と遊び③
		内 容	・グループ毎にクリスマス会を行うと共に、他グループの企画したクリスマス会に参加する。
		授業時間外 学修	予習：クリスマス会を行うための準備をする。 復習：様々なクリスマス会に参加しての意見や感想をまとめる。
	第 12	テーマ	保育の記録とカリキュラムマネジメント
		内 容	・保育記録、カリキュラムマネジメントの必要性を理解する。

	回		・保育記録、カリキュラムマネジメントの捉え方やまとめ方について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：カリキュラムマネジメントの意味を調べる。 復習：授業内容を振り返り、新たな学びについての整理をする。
	第 13 回	テーマ	保育P D C Aサイクルより ～月案の作成～
		内 容	・保育のP D C Aサイクルを理解する。 ・月案作成の意義、様式及び手順等を理解し、実際に月案を立てる。
		授業時間外 学修	予習：作成する月案の季節感、遊び、活動、行事などの内容を調べる。 復習：完成した月案についての見直しと提出の準備をする。
	第 14 回	テーマ	つながる保育
		内 容	・子どもがやりたいことを自由にできる、探求的な遊びや学びを実現するための保育について、事例検討していく。
		授業時間外 学修	予習：保育実習での子どもの遊びの様子についてまとめる。 復習：保育実習での経験とつながる保育を結びつけ、要点や疑問点をまとめる。
	第 15 回	テーマ	未来に向かう子ども達へ保育者としての在り方から考える
		内 容	・“子どもの最善の利益”と“保育の質”について考えを深める。 ・保育現場における社会人としての立場や責任について学ぶ。 ・どのようなことが現場で求められるのかグループディスカッションする。
		授業時間外 学修	予習：これまでの授業の内容に目を通す。 復習：保育者としての新たな気付きや心構え等について整理する。
	第 16 回		試験レポート
教科書・テキスト	・テーマに即したレジュメ及び関連した事項についての参考資料を配布する。 ・幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） ・保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）		
参考書・参考資料等	・授業時に資料を配布する。		
成績評価の方法・基準	・保育原理Ⅱへの理解度、保育実践に繋げることができる力、レポートにおける保育原理Ⅱの理解度（50％） 「自分で考え、実践できる力」（1）「現状をしっかりとらえることができる獲得度」（35％） ・授業参加度、意欲度（15％）		
課題に対する フィードバックの方法	・授業後に行う小レポートについては、各授業にて説明を行う。		
授業時間外学修	・予習（各授業回数 15 分）復習（各授業回数 15 分）として、授業計画で示された内容を実施する。 ・レポート等の課題から自己評価すると共に、既習内容の理解を深める。		
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は、幼稚園にて保育に従事した実務経験を持つ。幼稚園教諭としての実務経験をいかして、保育現場での具体的な事例を挙げながら授業を行う。 ※必要に応じて、授業内容を変更する場合がある。		
連絡先（質問等）	授業前後に、教室にて質問を受け付ける。 オフィスアワー 月曜日 12 時 25 分～12 時 50 分		

授業科目	子ども家庭福祉			授業形態	講義	単位数	2 単位
担当者	菅原 温						
ナンバリング	ESU1C44	開講時期	1 年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	保育士:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	今、子どもたちを取り巻く社会環境、家庭環境は本当に豊かといえるだろうか。 テキストや配布資料、事例などを用いて、現代社会における「子ども家庭福祉」の意義や歴史の変遷、人権擁護、制度、実施体系、現状と課題、展望などについて理解し、21 世紀を担う子どもたちのために私たちは何をしなければならないかを、「子どもの権利」という視点から捉え、学習をすすめる。加えて、映像視聴やグループディスカッション等を通じて、理解を深める。						
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施		○	
到達目標	・現代社会における児童福祉事業の重要性とその事業の機能と役割について理解し、説明ができる。 ・子ども家庭福祉の発展過程、現状と課題、かかわる仕組みについて理解する。 ・子ども家庭福祉の専門職としての責任感、専門性への意識を身に着ける。 ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」を身につける。						
授業計画	第 1 回	テーマ	序章 児童家庭福祉を学ぶ前に				
		内 容	子ども家庭福祉の一分野としての社会的意義や体系、理念などを理解する。				
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 テキスト p13～16 に目を通し、「社会福祉とは」「子ども家庭福祉の視点」 復習： 「保育者、専門家としてのあり方」などについて理解を深める。				
	第 2 回	テーマ	第 1 部 子ども家庭福祉の概要 第 1 章 子どもと家庭を取り巻く現状				
		内 容	「子どもと家庭を取り巻く現状」について理解する。				
		授業時間外学修	予習： テキスト p19～p32 に目を通しておく。 復習： 「子どもと家庭を取り巻く現状」を踏まえながら、地域社会のなかに保育士が求められる存在意義を考えてみる。				
	第 3 回	テーマ	第 2 章 子どもの権利				
		内 容	子どもの権利保障の歴史・わが国の子どもの権利保障				
		授業時間外学修	予習： テキスト p33～47 に目を通しておく。 復習： 子どもの最善の利益を考慮するために、私たちは子どもたちに対し、どのようにかかわればよいのか、自分の考えをまとめる。				
	第	テーマ	第 3 章 子ども家庭福祉の歴史				

	4 回	内 容	欧米諸国と日本の子ども家庭福祉について理解を深める。
		授業時間外 学修	予習： テキスト p49～62 に目を通しておく。 復習： イギリスの子ども観の変化についてまとめる。また、それぞれの歴史の 共通点と異なる点について整理する。
	第 5 回	テーマ	第 4 章 子ども家庭福祉の制度と法体系
		内 容	児童福祉六法及び関連する法律について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： テキスト p63～76 に目を通しておく。 復習： 子どもやその保護者に対する経済的支援の種類とその内容についてまと める。
	第 6 回	テーマ	第 5 章 子ども家庭福祉行財政と実施機関
		内 容	子ども家庭福祉の行財政と実施機関と施設などについて学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： p77～92 に目を通しておく。 復習： 子どもの養育という極めて私的な営みに行政が関与することの意義を考 えてまとめる。
	第 7 回	テーマ	第 2 部 子ども家庭福祉の取り組み 第 6 章 子育て支援サービスと児童の健全育成
		内 容	少子化対策の必要性和これまでの経緯を理解し、子ども・子育て新制度を含む現在 の展開と今後の方向性について考える。
		授業時間外 学修	予習： テキスト p95～108 に目を通しておく。 復習： エンゼルプランから今日までの施策の特徴をまとめる。
	第 8 回	テーマ	第 7 章 母子保健サービス
		内 容	母子保健の理念、サービスの実施と体系、取り組みについて学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： p109～120 に目を通しておく。 復習： 実際に妊娠・出産・育児期にどのような養育支援が行われているのか調 べてみよう。
	第 9 回	テーマ	第 8 章 保育サービス
		内 容	保育サービスの仕組みと今日的課題について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： テキスト p121～133 に目を通しておく。 復習： 自分の住んでいる地域の保育サービスの状況について調べる。
	第 10 回	テーマ	第 9 章 児童虐待とDV（ドメスティック・バイオレンス）
		内 容	児童虐待及びDVの現状と対応について理解する。
		授業時間外 学修	予習： テキスト P135～146 に目を通しておく。 復習： 児童虐待・DVの対応などに関連する機関や施設をまとめる。
	第 11 回	テーマ	第 10 章 社会的養護
		内 容	代替的養護の内容、施設養護・家庭的養護・家庭養護それぞれの法的位置づけを理 解する。また、「新しい社会的養育ビジョン」に触れ、今後の方向性を理解する。
		授業時間外 学修	予習： テキスト p147～160 に目を通しておく。 復習： 要保護児童の特性から施設養護、家庭養護の長所、短所を考えてみる。 (委託時の年齢などによっての違いなども)

	第 12 回	テーマ	第 11 章 ひとり親家庭への福祉
		内 容	ひとり親家庭の現状を把握し、支援体系や取り組みについて学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： テキスト p161～177 に目を通しておく。 復習： ひとり親家庭によって抱える生活課題について考え、母子家庭と父子家庭の共通点、相違点をあげる。
	第 13 回	テーマ	第 12 章 障がいのある子どもの福祉 第 13 章 情緒障がい・少年非行問題
		内 容	新たな福祉観と「障がい」観について理解する。 情緒障がい・少年非行問題について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： テキスト p180～199 に目を通しておく。 復習： 障がい児への福祉施策、情緒障がい、少年非行についてまとめる。
	第 14 回	テーマ	第14章 子ども家庭福祉の専門職と連携
		内 容	子ども家庭福祉専門職の専門性について学ぶ。 (地域における) 各関連機関の連携・協働の重要性と留意点。
		授業時間外 学修	予習： テキスト p201～P214 に目を通しておく。 復習： 自分の価値観と専門的価値を比較し、自分の価値観の傾向を考察する。
	第 15 回	テーマ	まとめ
		内 容	これまでの授業を振り返る。
		授業時間外 学修	予習： 14 回の授業の振り返りをする。 復習： 子ども家庭福祉の問題や課題について自分の考えをまとめる。
	第 16 回		筆記試験
教科書・テキスト		保育と子ども家庭福祉 最新版（みらい）	
参考書・参考資料等		保育小六法 最新版（みらい） その他、授業中に適宜資料を配布する。	
成績評価の方法・基準		定期試験と数回の授業後の課題レポートにより、子ども家庭福祉の意義や目的、仕組みの理解度、支援のあり方の理解度（60%）、「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」の獲得度（30%）、授業参加度（10%）で評価する。	
課題に対する フィードバックの方法		授業の終わりに出す課題については、次回の授業にて解説する。定期試験については採点后講評する。	
授業時間外学修		予習各授業回 30 分・復習各授業回 30 分として、授業内で示された内容を実施する。 定期試験に向けてテキストや資料を見直し、既習内容を確認する。（約 15 時間） 定期試験結果を踏まえて、自己評価するとともに既習内容の理解を深める。（3 時間）	
備 考		実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は、福祉系大学大学院で修士課程を修了後、社会福祉施設等で実務を経験している。児童福祉分野では児童指導員、ソーシャルワーカー、相談員としての経験をもち、現在に至る。社会福祉士。	
連絡先（質問等）		短大教務課へ質問等を頂き、担当職員からの連絡により、対応することとしたい。 その他、授業前後の時間に教室等にて質問等を受け付ける。	

授業科目	社会福祉概論			授業形態	講義	単位数	2 単位
担当者	伊藤和雄						
ナンバリング	ESU1C45	開講時期	1 年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	保育士:必修 主事任用:選択必修			実務経験のある教員による授業科目		該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	テキストや配布資料を用いて社会福祉の形成史と現状及び課題について学ぶ。また、映像視聴やグループディスカッション等を通して、社会福祉事業の機能、役割、社会福祉専門職としての保育士の役割を理解する。						
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施		○	
到達目標	・社会福祉事業の機能と全般について、基礎的知識を説明できる。 ・社会福祉事業の機能と役割を理解し、社会福祉専門職としての保育士の責任と専門性を説明できる。 ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」を身につける。						
授業計画	第 1 回	テーマ	オリエンテーション、現代社会と社会福祉				
		内 容	福祉の用語の意味、目的概念と実態概念を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。教科書 社会福祉概論 七訂 P7～P10 を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第 2 回	テーマ	社会福祉の歴史 欧米の社会福祉の歴史				
		内 容	イギリス、アメリカ、スウェーデンのあゆみを学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 教科書 社会福祉概論 七訂 P22～P31 を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第 3 回	テーマ	社会福祉の歴史 日本の社会福祉の歴史				
		内 容	古代から近世、近代以降、戦後の社会福祉の成立と動向を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 教科書 社会福祉概論 七訂 P32～P43 を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第 4 回	テーマ	社会福祉法制の形成史と現状課題				
		内 容	社会福祉法、社会福祉六法、基本法、社会保険を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 教科書 社会福祉概論 七訂 P46～P53、P184～P205 を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第 5 回	テーマ	生活保護の形成史と現状課題				
		内 容	原理、原則、種類と内容、保護施設の種類と内容、実施機関、保護の動向を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 教科書 社会福祉概論 七訂 P112～P120 まで読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				

	第 6 回	テーマ	子ども家庭福祉の形成史と現状課題
		内 容	家族、地域社会の変化、変化に伴う福祉問題を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 教科書 社会福祉概論 七訂 P70～P82 を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 7 回	テーマ	障がい者福祉の形成史と現状課題
		内 容	概観、サービス内容、実施機関の機能と役割を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 教科書 社会福祉概論 七訂 P83～P95 を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 8 回	テーマ	高齢者福祉の形成史と現状課題
		内 容	概観、サービス内容、実施機関の機能と役割を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 教科書 社会福祉概論 七訂 P96～P99 を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 9 回	テーマ	母子・寡婦・父子福祉などの現状課題
		内 容	概観、サービス内容、実施機関の機能と役割を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 教科書 社会福祉概論 七訂 P107～P111 を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 10 回	テーマ	地域福祉の形成史と現状課題
		内 容	地域福祉の背景、理念、定義、担い手、地域福祉計画を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 教科書 社会福祉概論 七訂 P122～P137 を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 11 回	テーマ	介護福祉の形成史と現状課題
		内 容	措置制度、介護保険制度に基づくサービスの提供の仕組みを学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 教科書 社会福祉概論 七訂 P100～P106 を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 12 回	テーマ	社会福祉従事者の形成史と現状課題
		内 容	社会福祉専門職の資格制度、専門性、専門職倫理を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 教科書 社会福祉概論 七訂 P140～P153 を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 13 回	テーマ	社会福祉の展望
		内 容	近年の社会福祉施策の動向を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 教科書 社会福祉概論 七訂 P208～P221 を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 14 回	テーマ	社会福祉援助技術の形成史と現状課題
		内 容	ソーシャルワークの定義、理念、技術、実践の過程を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 教科書 社会福祉概論 七訂 P156～P168 を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 15 回	テーマ	まとめ
		内 容	これまでの授業の振り返り、疑問点、理解不足の点をまとめる。
		授業時間外	予習： 既習内容を振り返り、疑問点、理解不足の点をまとめる。

		学修	復習： 疑問点、理解不足の点について既習内容を確認する。
	第 16 回		定期試験
教科書・テキスト	社会福祉概論 七訂(西村昇・日開野博・山下正國編著 中央法規出版)		
参考書・参考資料等	保育所保育指針(平成 29 年 3 月告示 厚生労働省) また、授業中に適宜資料を配布する。		
成績評価の方法・基準	授業におけるレポート・筆記試験及び出席状況により、専門的理解の程度(60%)、「コミュニケーション能力」(1)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。		
課題に対するフィードバックの方法	授業後に提出されたレポートについては、次回の授業にて解説する。定期試験については、採点后講評する。		
授業時間外学修	予習(各授業回約 30 分)、復習(各授業回約 30 分)として、授業計画で示された内容を実施する。 定期試験に向けてテキストや資料を見直し、既習内容を確認する。(約 50 時間) 定期試験の結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。(約 3 時間)		
備 考	—		
連絡先(質問等)	オフィスアワー 火曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 その他、授業前後に、教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	子ども家庭支援論			授業形態	講義	単位数	2 単位
担当者	伊藤和雄						
ナンバリング	ESU2C46	開講時期	2 年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	保育士:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						○
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	テキストや配布資料を用いて、保育所や施設の保育士にとっての家族支援を理解する。また、映像視聴やグループディスカッション等を通して、虐待、いじめ、不登校、引きこもり、貧困など、子どもと家族をめぐる問題や課題について理解を深める。						
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施		○	
到達目標	・保育所の「子育て支援」を重要な社会的役割として理解し、児童・親を含めた家族が保育の対象であることを説明できる。 ・種々の援助活動及び関係機関との連携についても説明できる。 ・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」を身につける。						
授業計画	第 1 回	テーマ	オリエンテーション、子ども家庭支援の意義と必要性				
		内 容	子ども家庭支援の意義、少子化社会対策を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第 2 回	テーマ	子ども家庭支援論の目的と機能				
		内 容	保育所、幼稚園における子ども家庭支援の目的、機能、原則を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 教科書 子ども家庭支援論 P14～P24 を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第 3 回	テーマ	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進				
		内 容	子育て支援・次世代育成支援の背景、新制度の概要を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 教科書 子ども家庭支援論 P26～P36 を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第 4 回	テーマ	子育て家庭の福祉を図るための社会資源				
		内 容	子育て家庭を支える社会資源と担い手、連携を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 教科書 子ども家庭支援論 P38～P48 を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第 5 回	テーマ	保育の専門性を活かした子ども家庭支援論とその意義				
		内 容	保育者の専門性、保育所保育指針が謳う子育て支援、認定子ども教育・保育要領における子育ての支援を学ぶ。				

		授業時間外 学修	予習： 教科書 子ども家庭支援論 P50～P60 を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 6 回	テーマ	子どもの育ちの喜びの共有
		内 容	子どもの育ちの喜びを共有する意味、ツールを学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 教科書 子ども家庭支援論 P62～P72 を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 7 回	テーマ	保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援
		内 容	保育所保育指針からみる保育士に求められる視点、支援を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 教科書 子ども家庭支援論 P74～P84 を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 8 回	テーマ	保育士に求められる基本的態度
		内 容	保育士と保護者との信頼関係、バイステックの7原則について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 教科書 子ども家庭支援論 P86～P96 を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 9 回	テーマ	家庭の状況に応じた支援
		内 容	家庭の状況に応じた支援を行ううえで保育者に求められる姿勢を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 教科書 子ども家庭支援論 P98～P108 を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 10 回	テーマ	地域の資源の活用と自治体・関係機関との連携・協力
		内 容	子ども家庭支援と自治体、関係機関との連携・協力、災害時対応と地域関係機関との連携を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 教科書 子ども家庭支援論 P110～P120 を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 11 回	テーマ	子ども家庭支援の内容と対象
		内 容	子ども家庭支援形態、アプローチ、多文化背景をもつ家庭への支援を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 教科書 子ども家庭支援論 P122～P132 を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 12 回	テーマ	保育所等を利用する子どもの家庭への支援
		内 容	保育所等が行う子ども家庭支援への期待、役割を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 教科書 子ども家庭支援論 P134～P144 を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 13 回	テーマ	地域の子育て家庭への支援
		内 容	地域の子育て家庭への支援の変遷、保育所における地域子育て家庭に対する支援を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 教科書 子ども家庭支援論 P146～P156 を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 14 回	テーマ	要保護児童およびその家庭に対する支援
		内 容	要保護児童の家族的背景、要保護児童とその家庭に対する支援のあり方を学ぶ。
		授業時間外	予習： 教科書 子ども家庭支援論 P158～P168 を読む。

		学修	復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 15 回	テーマ	まとめ、子育て支援に関する課題と展望
		内 容	これまでの授業の振り返り、ワークシートを用いてまとめを行う。
		授業時間外 学修	予習： 既習内容を振り返り、疑問点、理解不足の点をまとめる。 復習： 疑問点、理解不足の点について既習内容を確認する。
	第 16 回		定期試験
教科書・テキスト	子ども家庭支援論(松原康雄・村田典子・南野奈津子編著 中央法規出版)		
参考書・参考資料等	保育所保育指針(平成 29 年 3 月告示 厚生労働省) 幼稚園教育要領(平成 29 年 3 月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) また、授業中に適宜資料を配布する。		
成績評価の 方法・基準	授業におけるレポート・筆記試験及び出席状況により「自分で考え、実践できる能力」(1)獲得の程度(25%)、専門的理解の程度(60%)、授業参加度(15%)で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	授業後に提出されたレポートについては、次回の授業にて解説する。定期試験については、採点后講評する。		
授業時間外学修	予習(各授業回約 30 分)、復習(各授業約 30 分)として、授業計画で示された内容を実施する。 定期試験に向けてテキストや資料を見直し、既習内容を確認する。(約 50 時間) 定期試験の結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。(約 3 時間)		
備 考	—		
連絡先(質問等)	オフィスアワー火曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 その他、授業前後に、教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	社会的養護Ⅰ			授業形態	講義	単位数	2	単位
担当者	菅原 温							
ナンバリング	ESU1C47	開講時期	1 年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15	回
必修・選択	保育士:必修			実務経験のある教員による授業科目			該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。							○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。							
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。							○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。							
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。							
授業の概要・方法	テキストや配布資料、事例などを用いて、社会的養護の意義と目的、法（仕組み）、保育士における社会的養護の倫理と責務、ソーシャルワークを含む支援のあり方について学ぶ。加えて、映像視聴やグループディスカッション等を通じて、理解を深める。							
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施				
到達目標	・社会的養護の意義、目的、仕組みを理解し、里親・各施設の養育の意義を理解できる。 ・保育士における社会的養護の倫理と責務、ソーシャルワークを含む支援のあり方の基礎を理解する。 ・「フィードバック能力」(1)「自分の実践について検証し、課題を見つけることができる」を身につける。							
授業計画	第 1 回	テーマ	序章 社会的養護を学ぶために 第 1 章 現代社会における社会的養護の意義					
		内 容	新たな社会的養護の基本的な考え方を理解する。					
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。また、序章を読んでおく。 社会的養護について、まったく知識のない人にわかるように説明できるようまとめる。保育士に求められる視点、役割について考察する。					
	第 2 回	テーマ	事例 1 代替的養育について「家庭養護」					
		内 容	事例に触れて、その背景にあるもの、自分の考えをまとめてみる。					
		授業時間外学修	予習： 親と暮らせない子どもの気持ち、子どもと暮らせない親の気持ちを考えてみる。 復習： 事例についてレポート作成する。					
	第 3 回	テーマ	第 2 章 現代社会における社会的養護のニーズ					
		内 容	「家庭」について理解し、子どもの養育にどのような影響を与えるかについて学ぶ					
		授業時間外学修	予習： 第 2 章に目を通しておく。 復習： 「家庭とは」「子どもの養育にとっての家庭環境」などについてまとめ、近年の児童養護問題や社会的養護のニーズについて考察する。					
	第 4 回	テーマ	事例 2 「児童相談所」					
		内 容	社会環境の変化や児童養護問題の変化について理解し、求められる社会的養護ニーズについて考える。					

		授業時間外 学修	予習： 第2章と第6章に目を通しておく。 復習： 事例2のレポートを作成する。
	第5回	テーマ	第3章 社会的養護の歴史的変遷（日本を中心に）
		内 容	社会的養護のあゆみを知り、今日の現状までのプロセスや子ども観の変遷から社会的養護の本質にふれ、理解を深める
		授業時間外 学修	予習： 第3章に目を通しておく。 復習： 制度のなかった時代の先駆者たちの原動力となった思いや出来事について考えてみる。日本の子ども観、児童福祉法における子どもの位置づけを考えてみる。
	第6回	テーマ	子ども観の変遷と欧米諸国での取り組みから学ぶ
		内 容	欧米諸国での歴史的変遷や取り組みについて学ぶ（主に、イギリス、アメリカ）
		授業時間外 学修	予習： イギリスやアメリカの文化や子ども家庭福祉について調べてみる。 復習： 子ども観の変遷や欧米諸国の社会的養護のキーワードを整理する。
	第7回	テーマ	第4章 子どもの権利① 児童の権利に関する条約を中心に
		内 容	子どもの権利（子どもの基本的人権）や権利保障の視点・仕組みについて理解する。
		授業時間外 学修	予習： 第4章に目を通しておく。 復習： 児童の権利に関する条約のプロセスや特徴についてまとめる。
	第8回	テーマ	第4章 子どもの権利② 子どもの権利擁護
		内 容	権利保障の視点・仕組みについて学ぶ
		授業時間外 学修	予習： （子どもに対し）どのようなときに権利侵害となるか考えてみる。 復習： 里親・施設で暮らす子どもたちの権利を子ども、養育者それぞれの立場から考える。子どもの権利条約と国内関連法規の関連性をまとめる。わが国の社会的養護の課題を考える。
	第9回	テーマ	第5章 社会的養護にかかわる法令の理解
		内 容	社会的養護に関連する法律を理解する
		授業時間外 学修	予習： 第5章に目を通しておく。 復習： 法律体系を整理する。児童虐待問題、障がい児の福祉についての対策についてまとめる。
	第10回	テーマ	第6章 社会的養護のしくみと実施体制の理解
		内 容	社会的養護の体系、それぞれの目的と役割について、理解を深める。
		授業時間外 学修	予習： 第6章に目を通しておく。 復習： 社会的養護の体系について、施設養護（家庭的養護を含む）、家庭養護、在宅養護、相談機関それぞれの目的と役割まとめる。
	第11回	テーマ	第7章 家庭養護の基本原則と実際 第8章 施設養護の共通基盤と基本原則
		内 容	家庭養護や施設養護の原理、展開過程、インケアの実際についてまとめる。
		授業時間外 学修	予習： 第7章、第8章に目を通しておく。 復習： 里親等への理解を深めるとともに、施設養護に個別化、「自立すること」についてまとめる。各年代の子どもの特性、各種施設の支援内容と課題について整理する。

	第12回	テーマ	第9～11章 施設養護(児童養護施設、障害児施設、治療・行動系施設)の実際
		内容	子どもたちを取り巻く状況の変化を理解し、支援のあり方を学ぶ。児童養護施設、障害児施設、治療・行動系施設の目的と現状を理解する。
		授業時間外学修	予習： 各種の支援がどのように機能しているか調べる。 復習： 様々な背景の違いや、障害のある子どもへの支援など、各種施設、各種支援機関において、専門職として求められるものについて考察してみる
	第13回	テーマ	第12章 在宅支援 ～地域支援機能の充実～
		内 容	社会的養護と在宅の子ども家庭支援
		授業時間外学修	予習： 第12章に目を通しておく。 復習： 地域の社会資源を調べてみる。
	第14回	テーマ	第13章 社会的養護にかかわる専門職 第14章 施設の運営管理
		内 容	専門職の役割を理解するとともに、知識、技術、価値・倫理について理解する。 〈自己覚知〉〈ソーシャルワーク〉などの内容にも触れる
		授業時間外学修	予習： 第13～15章に目を通しておく。 復習： 自分の価値観と専門的価値を比較し、自分の価値観の傾向を考察する。
	第15回	テーマ	第15章 社会的養護の動向と方向性 まとめ(全体の復習)
		内 容	施設運営(しくみの根幹にあるもの)を理解し、組織で動く全体像をつかむ。 社会的養護の将来像をまとめてみる。
		授業時間外学修	予習： 14回の授業を振り返り(テキスト熟読) 復習： 社会的養護の問題や課題について自分の考えをまとめる。
	第16回		筆記試験
教科書・テキスト	保育と社会的養護Ⅰ 最新版(みらい)		
参考書・参考資料等	保育小六法 最新年版(みらい) その他、授業中に適宜資料を配布する。		
成績評価の方法・基準	定期試験と数回の授業後の課題レポートにより、社会的養護の意義や目的、仕組みの理解度、保育士としての人間理解の重要性や倫理と責務、支援のあり方の理解度(60%)、自身の課題に気づく力を身につける「フィードバック能力」(1)「自分の実践について検証し、課題を見つけることができる」の獲得度(30%)、授業参加度(10%)で評価する。		
課題に対するフィードバックの方法	授業の終わりに出す課題については、次回の授業にて解説する。定期試験については採点后講評する。		
授業時間外学修	予習各授業回30分・復習各授業回30分 として、授業内で示された内容を実施する。 定期試験に向けてテキストや資料を見直し、既習内容を確認する。(約20時間) 定期試験結果を踏まえて、自己評価するとともに既習内容の理解を深める(3時間)		
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は、福祉系大学大学院で修士課程を修了後、社会福祉施設等で実務を経験している。児童福祉分野では児童指導員、ソーシャルワーカー、相談員としての経験をもち、現在に至る。社会福祉士。		
連絡先(質問等)	短大教務課へ質問等を頂き、担当職員からの連絡により、対応することとしたい。 その他、授業前後の時間に教室等にて質問等を受け付ける。		

授業科目	子ども家庭支援法			授業形態	講義	単位数	2	単位
担当者	石井 恭							
ナンバリング	ESU1C49	開講時期	1 年次後期	授業時間数	30	時間	授業回数	15 回
必修・選択	保育士：必修			実務経験のある教員による授業科目			該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1) 理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。							○
	(2) 専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。							
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1) 基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。							○
	(2) 実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。							
	(3) 学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。							
授業の概要・方法	人は出生後、乳幼児期から老年期に至るまで発達段階があり、それぞれの段階に応じたライフサイクルがある。生涯をその人なりに自己実現できる社会生活を送るには、家族や家庭、地域社会などの環境の関与が大きい。教科書や配布資料、グループディスカッション等を通して自主的に広く学んでいく。							
アクティブラーニングの実施		○			ICT を活用した授業の実施		○	
到達目標	・生涯発達に関する基礎的な知識を習得し、子どもの初期経験の重要性及び発達課題等を理解できる。 ・家族・家庭の意義や機能を理解し、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解できる。 ・子育て家庭をめぐる現代社会の状況および子どもの精神保健の課題について理解できる。 ・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」を身につける。							
授業計画	第 1 回	テーマ	乳児期の発達					
		内 容	乳児期の心身の発達は、全人生の中で特に目覚ましいものがある。運動発達、社会性の発達、言葉の発達などについてその特徴を学ぶ。					
		授業時間外学修	予習：目覚ましい発達過程と保育士のかかわりを理解する。 復習：教科書、資料、授業内容をもとに、乳幼児期の発達の要点を整理する。					
	第 2 回	テーマ	幼児期の発達					
		内 容	幼児期の基本的な発達特徴である「認知」「言語」「社会性」「自我の発達」を学ぶ。					
		授業時間外学修	予習：発育区分と心身の発達の特徴を理解する。 復習：保育士として、幼児期の心身の発育・発達、発達阻害要因を整理する。					
	第 3 回	テーマ	学童期の発達					
		内 容	学童期へ移行するプロセスで起こる発達の特徴である「認知」、「社会性」、「自己概念」を知り、必要な教育支援について学ぶ。					
		授業時間外学修	予習：学童期の発達課題と教育支援について理解する。 復習：教科書、資料、授業内容をもとに要点や疑問点を整理する。					
	第 4 回	テーマ	青年期の発達					
		内 容	中学生から大学性くらいをさし、子ども時代から大人への移行期にあたる。青年期の身体的発達、認知発達、対人関係の変化、青年期の問題行動、また対人関係の変化により生じる臨床的疾患も新たな課題として学ぶ。					
		授業時間外学修	予習：青年期の心身の発達課題と臨床的課題を理解する。					

		学修	復習 : 教科書、資料、授業内容をもとに、青年期の特徴の要点や疑問点を整理する。
	第5回	テーマ	成人期・中年期の発達
		内 容	成人期とは、職業に就く、自らの家庭を築いて子どもを産み育てるなど、社会のメンバーとしての責任を担い、さまざまな役割を果たす時期である。中年期とは、転職や失業、離婚や親の介護・死などを経験し、配偶者や子ども、親、他者との関係性が変化していくことで、自分の生き方を見つめ直す時期であることを学ぶ。
		授業時間外学修	予習 : 成人期、中年期の発達課題や社会的役割、ライフスタイルを理解する。 復習 : 教科書、資料、授業内容をもとに、知り得た知識の要点を整理する。
	第6回	テーマ	高齢期の発達
		内 容	わが国では超高齢化が進んでおり、数年後には全人口の3分の1が高齢者である時代を迎える。少子化と労働人口の減少とあいまって、将来は、高齢者もさまざまな職場において継続して働く社会になることが推測されるなどを学ぶ。
		授業時間外学修	予習 : 生涯発達における高齢期の課題と生きがいをもたらすための「クオリティ・オブ・ライフ」とはについて理解する。 復習 : 教科書、資料、授業内容をもとに、知り得た知識の要点を整理する。
	第7回	テーマ	家族・家庭の意義と機能
		内 容	家族や家庭の概念は、社会構造の変化や住む人々価値観の多様化により、歴史的にこれまで担ってきた役割や意義が違ってきたことを学ぶ。
		授業時間外学修	予習 : 生活の基盤である「家族」や「家庭」の意義と機能及び価値観の多様化の中で、お互い認め合いながら生活を維持していく重要性を学ぶ。 復習 : 教科書、資料、授業内容をもとに、知り得た知識の要点を整理する。
	第8回	テーマ	家族関係・親子関係の理解
		内 容	家族は私たちにとって最も身近な存在であるが、そもそも家族とは何だろうか。グループワークの中から自ら考えて、理解を深めていく。
		授業時間外学修	予習 : 個人にライフサイクルがあるように、家族にもまたライフサイクルがあることを理解する。 復習 : 教科書、資料、授業内容をもとに、ライフサイクルについて整理する。
	第9回	テーマ	子育ての経験と親としての育ち
		内 容	保護者の気持ちを深く理解し、園と保護者の相互の信頼関係を構築することが必要である。保護者の多くが親であることから、親の意識や価値観の多様性を理解し、「親としての育ち」の支援について学ぶ。
		授業時間外学修	予習 : 保育者と保護者の関係構築について理解する。 復習 : 教科書、資料、授業内容をもとに、知り得た知識の要点を整理する。
	第10回	テーマ	子育てを取り巻く社会的状況
		内 容	育児不安を持つ家庭、夫婦共働きの家庭、孤立しがちな家庭などいろいろな課題を持って子育てしている家族に対して、現在地域の中にはどのような支援体制があるのかを、教科書や参考資料「母子保健法で施行されている母子支援体制や国民衛生の動向」などを参照しながら学ぶ。

		授業時間外 学修	予習 : 母子保健法、国民衛生の動向等を参考にして理解する。 復習 : 教科書、資料、授業内容をもとに、知り得た知識の要点を整理する。
	第 11 回	テーマ	ライフコースと仕事・子育て
		内 容	その時代の人口構成、生活水準、経済状態、社会制度の影響、災害等大きな出来事など、変動する社会の中で人々が個々の人生をどのように歩むのかを学ぶ。
		授業時間外 学修	予習 : ライフコースの概念について理解する。 復習 : 教科書、資料、授業内容をもとにライフコースの概念を整理する。
	第 12 回	テーマ	多様な家庭とその理解
		内 容	近年ますます多様化する家庭の有様を、家族の関係に焦点をあてて見つめ、課題の早期発見と具体的な支援対策及び、外部機関との連携を含めグループワークの中から学ぶ。
		授業時間外 学修	予習 : 教科書の内容を読み取り、個人や社会の価値観の多様化について理解する。 復習 : 教科書、資料、授業内容をもとに、要点や疑問点を整理する。
	第 13 回	テーマ	特別な配慮を必要とする家庭への支援
		内 容	養育者のメンタルヘルスや子どもの障害、虐待、ネグレクトなど不適切な養育環境と家族が機能不全に陥っている状態に対して、どのような支援が適切かを学ぶ。
		授業時間外 学修	予習 : 一般的情報を参考に、「障害とは」について理解する。 復習 : 教科書、資料、授業内容をもとに、知り得た知識の要点を整理する。
	第 14 回	テーマ	子どもの生活・生育環境とその影響
		内 容	子どもの発達とは生得的なものもあるが、与えられた環境に依存する部分も大きい。年齢に応じて必要とする環境を設定したり、また設定できない時はどのような影響があるかを学ぶ。
		授業時間外 学修	予習 : 発達の過程には環境が大切であることを理解する。 復習 : 教科書、資料、授業内容をもとに、知り得た知識の要点を整理する。
	第 15 回	テーマ	子どものこころの健康にかかわる問題
		内 容	子どもの習癖は必ずしも心理的影響でおこっているわけではないが、発症時期、症状の強さ期間の長さによって、心理面や発達に影響することがあることを学ぶ。
		授業時間外 学修	予習 : 子どもの習癖の内容と心理・発達との関係を理解する。 復習 : 教科書、資料、授業内容をもとに、知り得た知識の要点を整理する。
	第 16 回		定期試験
教科書・テキスト	・子どもの家庭支援の心理学(中央法規) ・国民衛生の動向 (厚生労働省統計協会)		
参考書・参考資料等	・子どもの保健 I (中央法規)		
成績評価の方法・基準	・定期試験により、各単元の理解度 (70%)、「自分で考え、実践できる能力」(1) 獲得の程度 (10%)、授業参加度 (20%) で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	・前回の授業内容やプリントの既習内容をもとに整理する。 ・レポートや試験答案は採点后、講評を行う。		
授業時間外学修	・授業計画で示された内容を予習で確認し、復習で自分の知識としてまとめる。(1 時間) ・定期試験の結果を踏まえ、自己評価するとともに既習内容の見直しを行う。(1 時間)		

備 考	・実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は山形大学医学部附属病院と日本海総合病院産婦人科、ICU、小児科未熟児室を含む看護師・助産師に従事した経験と、2008 年に山形県立保健医療大学大学院の修士（看護学）の学位を取得し、その後も子どもたちが健やかに成長・発達できるよう療養生活の援助、他の医療者と連携し、高水準の看護を提供できるよう活動してきた。これらの経験から新しい情報を取り入れ、望ましい養育環境・社会環境の在り方等について共に考えていく授業を行いたい。
連絡先（質問等）	授業前後に、教室にて質問を受け付ける。

授業科目	子どもの保健Ⅰ			授業形態	講義	単位数	2 単位
担当者	荒井眞智子						
ナンバリング	ESU1C50	開講時期	1 年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	保育士：必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1) 理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2) 専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1) 基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2) 実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3) 学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	乳幼児期は人の一生の中で特に心身の発達が目覚ましい時期である。本来持っている子どもの成長、発達の能力を基に先天性疾患、感染症等を理解し対処方法についても学ぶ。保育における事故防止、安全対策、災害対策に関して社会状況を踏まえて理解する。発達段階に応じた保育や教育は、将来社会人としての人格形成まで連続していることを、教科書や話し合いの中から主体的に学ぶ。						
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施		○	
到達目標	① 子どもの健康と保健の意義を理解する。 ② 子どもの成長・発達について発達段階毎の特徴を理解し、説明することができる。 ③ 子どもの健康状態を把握する意義を理解することができる。 ④ 子どもの主な疾病と、発達段階に罹り易い感染症の特徴と予防法について理解できる。 ⑤ 子どもの健康の関する現状と課題について考察し、社会人として実践するために必要な能力を身につける。						
授業計画	第 1 回	テーマ	生命の保持と情緒の安定に関わる保健活動の意義と目的				
		内 容	生物としてのヒトと人間の違いを理解する。人間形成に特に必要なことは、「生命の保持」と、「情緒の安定」であることを学ぶ。				
		授業時間外学修	予習 : 教科書を熟読し、「生命の保持」と「情緒の安定」の意味を理解する。 復習 : 資料と授業内容及び教科書をもとに、要点を整理する。				
	第 2 回	テーマ	健康の概念と健康指標				
		内 容	「健康とは」について、グループディスカッションしながら自分の考えをまとめる。				
		授業時間外学修	予習 : 世界保健機関（WHO）憲章の提唱する「健康とは」を熟読し理解する。 復習 : グループディスカッションで得られた「健康の概念」を整理する。				
	第 3 回	テーマ	現代社会における子どもの健康に関する現状と母子保健施策				
		内 容	子どもの健康や母子保健施策を統計上から、諸外国と比較をしながら学ぶ。				
		授業時間外学修	予習 : 教科書を熟読し、詳細な統計は「国民衛生の動向」を参考にする。 復習 : 資料と授業内容及び教科書をもとに、統計上知りえた要点を整理する。				
	第 4 回	テーマ	地域における保健活動と子ども虐待防止				
		内 容	「児童虐待防止法」、「地域保健機関同士の連携」と「早期支援体制」について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習 : 教科書を熟読し、虐待の内容とその支援体制について理解する。				

		学修	復習 : 虐待にいたる要因、早期発見、支援体制等について、要点を整理する。
	第5回	テーマ	身体発育および運動機能の発達と保健
		内 容	身体的・運動機能的発育・発達の過程とその個人差を知り、適切な対応を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習 : 子どもの年齢に応じた心身の発育・発達の特徴と個人差を理解する。 復習 : 資料と授業内容及び教科書をもとに、要点を整理する。
	第6回	テーマ	生理機能の発達と保健
		内 容	人間の生理機能(内科系、外科系、神経系、免疫系など)について具体的に学ぶ。
		授業時間外 学修	予習 : 人間の主な臓器の名称や、その役割と働きについて理解する。 復習 : 資料と授業内容及び教科書をもとに、人間の生理機能の要点を整理する。
	第7回	テーマ	健康状態の観察および心身の不調等の早期発見
		内 容	乳幼児の健康時のバイタルサイン(脈拍、呼吸、体温)と、症状の観察を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習 : 乳幼児に多い主な疾患名その症状の観察、その対応について理解する。 復習 : 資料と授業内容及び教科書をもとに、疾患名と症状の観察点を整理する。
	第8回	テーマ	発育・発達の把握と子どもの栄養
		内 容	健康診断から、子どもの発育・発達の個別的状況を把握でき、その重要性を知る。
		授業時間外 学修	予習 : 子どもの発育・発達に必要な子どもの食と栄養について理解する。 復習 : 資料と授業内容及び教科書をもとに、健康診断の意義を整理する。
	第9回	テーマ	保護者との情報共有
		内 容	保護者と保育者との「気づき」の「ずれ」を知り、互いの情報共有の大切さを学ぶ。
		授業時間外 学修	予習 : 教科書を熟読し、「ずれ」が生じる要因はどこにあるのかを理解する。 復習 : 資料と授業内容及び教科書をもとに、「ずれ」が生じる要点を整理する。
	第10回	テーマ	主な疾病の特徴① 新生児の病気、先天性の病気
		内 容	新生児期の低出生体重児の特徴、先天性疾患や感染性疾患の病態生理について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習 : 教科書を熟読し、代表的疾患名(先天性、後天性、感染性)を理解する。 復習 : 資料と授業内容及び教科書をもとに、新生児各疾患の要点を整理する。
	第11回	テーマ	主な疾病の特徴② 循環器、呼吸器、血液、消化器の病気
		内 容	循環器、呼吸器、血液、消化器疾患の病態生理と症状の観察、治療について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習 : 各臓器の働きと障害された時の疾患名、症状や治療方法を理解する。 復習 : 資料と授業内容及び教科書をもとに、疾患名と症状、治療を整理する。
	第12回	テーマ	主な疾病の特徴③ アレルギー、免疫、腎泌尿器、内分泌の病気
		内 容	子どものアレルギー疾患や免疫疾患の病態生理と症状の観察、治療について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習 : 教科書を熟読し、特に子どものアレルギー疾患と免疫疾患を理解する。 復習 : 資料と授業内容及び教科書をもとに、疾患名と症状、治療を整理する。
	第13回	テーマ	主な疾病の特徴④ 脳の病気、その他の病気
		内 容	中枢神経(脳)の病気、運動器、皮膚、目、耳、小児がんの病態生理について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習 : 教科書を熟読し、臓器名や働き、障害を受けた時の疾患名を理解する。 復習 : 資料と授業内容及び教科書をもとに、疾患名と症状、治療を整理する。
	第14回	テーマ	主な疾病の特徴⑤ 感染症
		内 容	学校保健安全法の理解と予防接種の意義について学ぶ。

	回	授業時間外 学修	予習 : 保育所における感染対策(ガイドライン)、登園基準等理解する。 復習 : 特に予防接種の時期と種類について、月齢と合わせて整理する。
	第 15 回	テーマ	子どもの疾病の予防と適切な対応
		内 容	免疫力の弱い乳幼児を感染症から守るために、疾病と予防対策について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習 : 教科書を熟読し、保育所における衛生管理の方法を理解する。 復習 : 資料と授業内容及び教科書をもとに、要点を整理する。
	第 16 回		定期試験
教科書・テキスト		・子どもの保健（中央法規）	
参考書・参考資料等		・子どもの保健Ⅰ（ななみ書房） ・子どもの保健Ⅰー子どもの健康と安全を守るためにー（学建書院） ・国民衛生の動向（厚生労働省統計協会）	
成績評価の方法・基準		定期試験により各単元の理解程度（70％）、授業内活動・「コミュニケーション能力」(1) 獲得の程度（30％）で評価する。	
課題に対する フィードバックの方法		・前回の授業内容や配布資料で既習内容を確認・整理する。 ・試験答案、レポートは採点后講評を行う。	
授業時間外学修		・予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分）、として、授業計画で示された内容で実施する。 ・定期試験に向けて、教科書や配布資料を見直し、既習内容を確認する。（約 3 時間） ・保育に関連した文献や新聞・雑誌等種々の情報誌を読み、社会の動向を知る。（随時）	
備 考		・実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は県立病院看護師、助産師として産婦人科病棟、NICU・GCU 病棟、小児科病棟に約 20 年間、急性・慢性疾患児及び低出生体重児の看護等に従事した経験と、看護学校、助産師学校において専任教員として約 15 年間教育にあたる。これらの経験と種々の新しい情報を織り交ぜながら、子どもたちの心と身体の健康を育むことを目的とし、望ましい養育環境・社会環境の在り方等について、一緒に考えていくような授業を行う。	
連絡先（質問等）		授業前後に、教室にて質問を受ける	